

日時：2022 年 11 月 17 日（木）16：30～18：00

場所：栃木県総合文化センター ホール棟 2 階 サブホール（第 2 会場）

〒320-8530 栃木県宇都宮市本町 1-8

I 開会

II. 理事長挨拶

当法人定款第 21 条により大西宏明理事長が議長となり、定時社員総会の決議にあたり社員数 185 名のところ社員出席、議決権行使、委任を合わせて半数を超えるため（約 120 名）、定款第 24 条により臨時社員総会での決議は成立することが報告され、代表理事のほか、評議員の古川泰司先生を議事録署名人と定め議事を進めた。

第 69 回学術集会会長の山田俊幸先生から、「地域社会に貢献する臨床検査」をメインテーマとして、現地開催で一部オンデマンド配信するが、多くの会員に参加いただきたいと一言挨拶があった。

1. 各種委員会活動報告（古川泰司 総務理事）

2022 年度各種委員会活動中間報告について、各委員会のまとめが資料として用意され、次項のとおり報告された。

1) 学術推進化委員会（委員長：浅井さとみ、担当理事：矢富 裕）

- ①2020 年度採用 学術推進プロジェクト研究課題の最終報告会（2 題）学術集会にて実施（2022 年 11 月 19 日）
- ②2021 年度採用 学術推進プロジェクト研究課題の中間報告を受理
- ③2022 年度 学術推進プロジェクト研究として 2 課題を採択
- ④学術推進プロジェクト研究の募集要項に間接費について追記
投稿受付は学術推進化委員会事務局でまず確認
- ⑤2023 年度 学術推進プロジェクト研究課題を募集（受付期間 2023 年 1 月 10 日～3 月 31 日）

2) 編集委員会（委員長：吉田 博、担当理事：×谷直人）

- ①2021 年度発行の本学会機関誌に出版された論文を対象に優秀論文賞の審査を行い、受賞者を選考決定した。
- ②論文掲載時ではなく論文投稿時に会費を納入するよう投稿規定の改定を行った。
- ③英文誌 Laboratory Medicine International (LMI) の発刊に向け、創刊号（1 巻 1 号）および 2 巻 1 号の掲載内容を検討した。
投稿規定の整備や論文投稿システム ScholarOne Manuscripts のシステム要件の確認等を行った。
なお LMI は 2022 年 11 月に創刊の予定である。
- ④編集委員会（Web 会議）は今年度 3 回実施された。

3) 教育委員会（委員長 植木重治、担当理事 木村 聡）

- ①【共催】第 6 回医学生のための臨床検査ハンズオンセミナー（臨床検査領域講習 2 単位，2022 年 8 月 21 日 PM web 開催，主催：ワークライフバランス委員会、近畿支部）松本剛、中村文彦、山口宗一、金子誠、常川勝彦、植木重治
- ②【第 69 回日本臨床検査医学会学術集会 教育委員会企画】
 - ・ RCPC 1（臨床検査領域講習 1 単位）日時：11 月 19 日（土）14：40～16：10、座長：松本剛
 - ・ RCPC 2（臨床検査領域講習 1 単位）日時：11 月 19 日（土）16：20～17：50、座長：中村文彦
 - ・ Catch Up セミナー（臨床検査領域講習 3 単位：各 1 単位）日時：11 月 20 日（日）13:10～16:10、座長：小飼貴彦、山口宗一
- a) 前田士郎 先生（琉球大学）ヒトゲノム解析が臨床検査領域に与えるインパクト

- b)井上克枝先生（山梨大学）血小板活性化受容体 CLEC-2 の同定と機能からその臨床応用まで
- c)小川正浩先生（福岡大学）臨床心電学の進歩と不整脈治療
- ③厚労省の医師臨床研修制度に対するアンケート(9月)、教育委員会からのアンケート返答案を作成

④【常設 e-learning】

e-learning コンテンツのスライドの様式の COI 提示に変更。今後作成者の依頼予定。

4) 臨床検査点数委員会（委員長：松下一之、担当理事：古川泰司）

① 委員会開催： 第1回委員会：7月13日（WEB開催）

1. 令和6年の改訂に向けた活動計画。

7月13日に2022年度第1回委員会をWEB会議を開催予定。

議題（案）

- 1)2024年度診療報酬改定に向けての、提案書作成の準備（今年度末頃）。日本臨床検査専門医会とも協働。
- 2)社員・会員向け要望アンケートとコスト調査を行うかどうか振興協議会と意見調整中。
- 3)新規の保険点数の要望項目のアンケート。
- 4)臨床検査のAI化、統合システム化（標準化、コード化など）に向けての本委員会としての対応。
- 5)その他。

2. その他。

日本核医学会の健保委員会から「不明熱診断に対するFDG-PET/CT検査の保険適用」について本学会との共同提案の打診があり、当委員会においてメール審議をおこない学会事務局に提出した。

② 2024年度診療報酬改定に向けた活動

- ・日本臨床検査振興協議会への参加：診療報酬改定小委員会が3回開催された（第1回2022年7月13日、第2回10月3日、第3回11月1日）。

<検査医学会/専門医会への調査依頼事項>

- 蛋白分画：院内検査と外部委託検査の実施割合を確認。
- DIRA法の詳細。
- 削除項目のインパクト調査（関連臨床学会への確認）
- 造血管腫瘍遺伝子検査：注において、検査実施施設の要件が設定された経緯を確認
- 染色体検査：検査実施施設の要件が設定された経緯を確認

③日本医師会・疑義解釈委員会への対応

- ・月2回開催され、特に供給停止予定の体外診断薬連絡に対して、委員会への意見収集がなされている。現在のところ異議申し立ては行われなかった。

④新規保険収載項目の情報提供

- ・日本臨床検査薬協会との共同作業により、新規保険収載項目の情報を監修し、会員メール、日本臨床検査医学会誌、ホームページを通じて会員に提供している。

5) 学会賞委員会（委員長：飯沼由嗣、担当理事：井上克枝）

①2022年8月10日（火）にZoom開催された学会賞選考委員会で受賞候補者を選出し理事会に報告、理事会にて受賞者が決定された。受賞者は下記の通りである。学術賞（木村孝穂氏）、検査・技術賞（鈴木敦夫氏）、若手研究者奨励賞（中野恵一氏）、優秀論文賞（松村憲浩氏、黒田哲也氏）。

②日本臨床検査医学会学会賞・功労賞に関する規定の一部変更について、理事会での審議を依頼した。

6) 標準化委員会（委員長：三井田孝、担当理事：日高 洋）

①Cペプチドの標準化に向けて、浜松医科大学の山下計太委員を中心に研究計画を作成中である。

②日本臨床化学会のリポ蛋白検査専門委員会で、Lp(a)試薬の標準化にむけて準備が進んでいる。協力を要請された場合は、当委員会も協力していく予定である。

7) 精度管理委員会（委員長：小池由佳子、担当理事：堀田多恵子）

- ① CAP 国際臨床検査成績評価プログラム中間報告：2022 年度サーベイ参加施設数は 184 施設であり、昨年と比較して 14 施設減であった。参加中止施設全体の 63%が新型コロナウイルス関連検査の参加施設であった。本年度は外部精度管理調査及び CAP 国際臨床検査成績評価プログラムに関するアンケートを実施する。
- ②「臨床検査室グローバルニュース」報告：季刊誌として年 4 回ペースで発行している。すでに 2022 年 5 月 25 日に春号、8 月 25 日に夏号を発行した。今後 11 月 25 日に秋号、2023 年 2 月 25 日に冬号を発行予定である。引き続き、記事の確認、英文翻訳の校閲を行っていく予定である。

8) EBLM 委員会（委員長：佐藤正一、担当理事：満田年宏）

- ①2022 年 7 月 5 日第 1 回 EBLM 委員会を開催し、委員長、担当理事、委員の交代の紹介、EBLM 委員会 HP の更新および今年度の教育セミナーについて会議を行った。
- ②第 69 回学術集会（栃木県）にて、EBLM 委員会企画・教育セミナーを開催予定。
テーマ：「臨床検査に必須の誤差要因分析」座長：片岡浩巳（川崎医療福祉大学）講演者：佐藤正一（順天堂大学）、市原清志（山口大学）で行う。

9) 倫理委員会（委員長：木村孝穂、担当理事：古川泰司）

- ①2022 年 6 月群馬大学主管で開催された第 69 回全国国立大学法人病院検査部会議において前委員長（現在も委員継続中）が「医療倫理における検査部の役割：既存資料の研究、業務、教育のための使用について」の講演を行った。
- ②第 69 回日本臨床検査医学会学術集会にて講演会「臨床検査医学領域の倫理的課題と今後の展望」を企画し開催した。

10) 利益相反委員会（委員長：山崎正晴、担当理事：古川泰司）

- ①日本医学会から同会の利益相反管理規定案について意見聴取の依頼があり、コメント等はないことを日本医学会に回答した。（2022 年 6 月 1 日）
- ②本年度の学術集会において企業の社員が単独の成果を発表する際に、他の企業・大学との COI がないので、『COI はなし』でいいかと問い合わせがあり、①演題発表時に利益相反「なし」の開示書式をスクリーン掲示、②演題発表時の冒頭スライドに所属先名を含めた掲示を求めることを回答した。（2022 年 10 月 25 日）

11) ガイドライン作成委員会（委員長：田中靖人、担当理事：吉田 博）

- ①2022 年度の第 69 回学術集会の委員会企画として、ガイドライン JSLM2021 に関するテーマで開催予定。
- ②2022 年度の第 69 回学術集会期間中に今年度第 1 回目のガイドライン作成委員会を開催予定。
- ③今年度は計 9 件の転載許諾依頼があり、内容を確認の上慎重に検討し許諾した。
- ④2022 年 9 月 17 日に行われた日本医療機能評価機構による【Minds】第 24 回診療ガイドライン作成に関する意見交換会に田中委員長が参加した。

12) 検査項目コード委員会（委員長：内海 健、担当理事：松下一之）

- ①JLAC10 コードについて、臨床検査項目として、分析物コード；新規 20 件、変更 3 件、削除 5 件、識別コード；新規 6 件、測定法コード；変更 2 件、結果識別（固有）コード；新規 247 件変更 28 件を実施した。
- ②「JLAC コード付番委員会」で新規体外診断薬を中心にして JLAC コードの付番を行っている。2022 年は、130 件の付番を行った。

13) 広報委員会（委員長：木村 聡、担当理事：✕谷直人）

- ①昨年に続き JACLaS EXPO で臨床検査医学会のブースを設営
 - ・新型コロナウイルス感染症検査に関する日本臨床検査医学会からの提言。
 - ・学会ホームページ掲載のアドホック委員会 COVID-19 に関する提言を印刷物と QR コード掲示で啓発。
 - ・11 月の日本臨床検査医学会年次学術集会のポスターを掲示
 - ・臨床検査専門医資格取得のメリットについて展示と印刷物配布（専門医会と共催、尾崎敬先生ご編集）
- ②2023 年春の日本医学会総会で一般市民向けポスターを展示。内容は次回の委員会で検討する。

14) 臨床検査室医療評価委員会（委員長：松下弘道、担当理事：堀田多恵子）

- ①日本医学会連合門田班（臨床内科グループ）より調査研究事業（新型コロナウイルス感染症における直接的な健康影響及び他の疾患の医療に与えた影響の調査に関する研究）の依頼があった。当学会での研究タイトルを”COVID-19パンデミックと臨床検査体制”として全国の医療機関にアンケート調査を行い、来年4月までにデータをまとめて報告書を作成する予定である。
- ②現在ISO/TC 212/WG1によるISO 15189の改訂作業が進んでおり、来年度の学術集会でこれに関する教育的講演を企画する予定である。

15) 遺伝子委員会（委員長：松井啓隆、担当理事：松下一之）

- ①日本臨床薬理学会「診療における薬理遺伝学検査の運用に関する提言」に対する意見の取りまとめを実施し、学会理事会に提出した。
- ②DTICによる全ゲノム解析サービスに対する意見集約を実施し、学会を介してゲノム・遺伝子関連学会および団体との意見交換を実施した。
- ③「良質かつ適切なゲノム医療を国民が安心して受けられるようにするための施策の総合的な推進に関する法律」の早期成立に向けた支援依頼に対して意見交換を実施し、学会としての賛同に寄与した。
- ④2022年度学術集会において、委員会企画「これからの遺伝子関連検査」を開催の予定。
- ⑤その他、委員会委員より寄せられたセミナー等の案内を学会会員に周知した。

16) 国際委員会（委員長：下澤達雄、担当理事：井上克枝）

- ①2022年度国際学会奨励賞受賞候補者を選考し、紺野 沙織、畑山 祐輝の2氏を受賞者として推薦した。
- ②World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPALM) 2022 (Sep 29-Oct 2, 2022、ウルグアイ)におけるJSLMセッション Recent Progress and Novel Perspective in Clinical Laboratory Medicineにて、宮地勇人理事(Quality Assurance of NGS-Oncology Tests through Laboratory Accreditation with on-site Evaluation)、村上正巳理事(Molecular Mechanism of Triglyceride Metabolism)、下澤達雄国際委員会委員長(Urine tells us what is happening in the body)が講演を行った。
- ③第17回ASCPaLM(10月7日から9日神戸 会長；宮地理事)におけるシンポジウムI 'Impacts of quality laboratory practice on SDGs'に津山 直子先生、シンポジウムII 'Preparedness for the next-pandemic'に山本 和子先生をそれぞれご推薦しご講演をお願いした。

17) 医療安全委員会（委員長：三枝 淳、担当理事：森兼啓太）

- ①第69回学術集会において、委員会企画「検査に関わる患者とのトラブル」を開催する予定。
- ②第12回特別例会（第31回日本医学会総会2023 東京）において、シンポジウム「タスクシフト・タスクシェアと医療安全（仮題）」を企画する予定。

18) 会則改定委員会（委員長：田部陽子、担当理事：谷直人）

- ①定款 第5章 社員総会の改定案を作成し、2022年度理事会において承認された。本改定案を、2022年度臨時社員総会の審議に諮る。

19) チーム医療委員会（委員長：小谷和彦、担当理事：田部陽子）

- ①「地域連携の中での臨床検査の位置づけと臨床検査専門家の役割」に関してチーム医療を焦点にして委員会内討議を行った。
- ②「パニック値」の運用に関して提言を公開した。質疑応答も行った。現在、この公開後におけるパニック値の状況について全国施設調査を実施中である。
- ③第69回学術集会において委員会企画「地域連携における臨床検査の貢献」を執り行なう。

20) 学術集会企画委員会（委員長：柳原克紀、担当理事：日高 洋）

第69回学術集会期間中に委員会開催予定。

21) ワークライフバランス委員会（委員長：西川真子、担当理事：田部陽子）

- ①臨床検査専門医取得に関するサポートセンターで、12件の相談に対応した。(担当：千葉泰彦 委員)
- ②第6回 ハンズオンセミナーを Web 開催した(8月21日(日)、共催：近畿支部、教育委員会、日本臨床検査専門医会)。(担当：松本剛 委員、西川真子委員)
- ③第69回学術集会でワークショップを実施する。(担当：朝比奈彩委員、岩泉守哉委員、増田亜希子委員)。

22) 統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会(委員長：田部陽子、担当理事：田部陽子)

- ①PHR(Personal Health Record)事業者団体(経産省系)会議が8/10に開催。2018年10月に本学会含む6臨床学会がPHR推奨設定公開済。推奨設定反映データ基盤を議論予定。
- ②臨床検査を含む医療データのコード標準化対応目的に、AMED中島班「医療施設における標準コードの効率的なマッピング手法に関する調査および実証研究」に湯地副委員長がオブザーバー参加予定。
- ③学術集會中11/19に2022年度第1回委員会開催予定。

23) 新型コロナウイルスに関するアドホック委員会(委員長：柳原克紀)

- ①「新型コロナウイルス感染症検査に関する日本臨床検査医学会からの提言」の更新を行った。
- ②2022年度・2023年度の委員の変更を行った。
- ③現在、COVID-19に対するこれまでの対応と、今後に向けた備えについての総括準備を行っている。

24) 地域医療における臨床検査に関するアドホック委員会報告

(委員長：小谷和彦、担当理事：森兼啓太)

- ①委員会(各支部担当者の参集)の開催；臨床検査専門医の地域分布に関する情報収集の体制づくり、および地域医療における同専門医の貢献内容についての検討。
- ②第69回学術集會における委員会企画「地域医療に貢献する臨床検査専門医：偏在と確保の視点」の実施。

25) 受験・更新資格審査委員会(委員長：三宅一徳)

- ①2022年度臨床検査専門医、臨床検査管理医の受験希望者の受験資格について審査を行い、臨床検査専門医・管理医審議会に報告した。
- ②今後2023年1月1日付けでの臨床検査管理医、学会臨床検査専門医の更新資格についての審査を行い、臨床検査専門医・管理医審議会に報告する予定。

26) 試験委員会(委員長：山田俊幸)

- ①第2回日本専門医機構認定臨床検査専門医試験ならびに第39回日本臨床検査医学会認定臨床検査専門医試験を8月7日に東京医科歯科大学で実施した
- ②第14回臨床検査管理医講習・試験を9月4日に順天堂大学で実施した。

27) Subspecialty検討委員会(委員長：吉田 博)

- ①昨年度まで臨床検査専門医制度検討委員会の下部組織としてあったSubspecialty検討小委員会は、今年度より臨床検査専門医・管理医審議会のなかに構成されSubspecialty検討委員会となった。
- ②日本専門医機構よりサブスペシャリティ領域の新規募集スケジュールに関する通知があったが、日本専門医機構におけるサブスペシャリティの設置の目安基準を満たしていないため、今後の継続的な課題として取り組むこととし、新たなサブスペシャリティ専門医の情報収集や必要性の検討を行う予定である。

28) 2022・2023年度臨床検査専門医認定試験実行委員会(委員長：古川泰司)

- ①第2回機構専門医試験、第39回臨床検査専門医認定試験は、帝京大学霞ヶ関キャンパスにて8月7日(日曜日)に1日で執り行われた。
- ②機構専門医受験者12名、学会専門医受験者9名の申込があった。
- ③辞退者が3名おり(全て学会専門医で全科目受験者)18名が受験した。
- ④委員会判定会議では、機構専門医受験12名中合格11名、学会専門医受験6名中合格4名と判定された。

29) 2022・2023 年度臨床検査管理医認定試験実行委員会（委員長：山田俊幸）

①第 14 回臨床検査管理医 講習会・認定試験 9 月 4 日に順天堂大学で実施し、38 名が受験し 37 名が合格となった。

30) 日本専門医機構認定臨床検査専門医研修プログラム認定委員会・日本専門医機構認定臨床検査専門医更新資格審査委員会（委員長：山田俊幸）

①2023 年度専攻医募集用の研修プログラム（新規、更新、変更）の一次審査を行い、日本専門医機構に報告した。

②2022 年日本専門医機構基本領域臨床検査専門医認定試験受験希望の 2022 年 3 月専門研修修了専攻医について、研修内容の一次審査を行い、日本専門医機構に報告した。

③機構専門医の認定、更新単位となる共通講習と臨床検査領域講習の審査、認定を行い、共通講習に関しては審査結果と開催後報告を行った。

④専門研修プログラム、専攻医からの問合せ等の対応をした。

31) ICD-11 委員会（委員長：末岡榮三朗、担当理事：吉田 博）

①ICD11 和訳タスクフォース委員会の活動を引き継ぎ、新たな委員会メンバー参加のもとで活動を開始した。

②名称を ICD-11 委員会と改称した。

③第 1 回委員会ミーティングを Web にて開催した。（2022 年 8 月 8 日）

④WHO-FIC (WHO Family of International Classifications) ネットワークの分類・統計諮問委員会 (CSAC) による ICD-11 改正内容に関する厚生労働省からの意見提出依頼があり、古田 ICD11 和訳タスクフォース委員長より回答を行った。

⑤厚生労働省から依頼のあった、ICD-11 for Mortality and Morbidity Statistics (MMS) の追加・変更分 172 用語の和訳の確認作業について、追加・変更分 172 用語に対して ICD-11 委員会にて検討を行い厚労省への回答案として提案した。

2. 第 70 回学術集会報告（長崎 2023/11/16(木)～11/19(日)、柳原克紀 会長）（大西宏明 理事長）

2023 年 11 月 16 日（木）～19 日（日）に、2021 年 1 月に開業した出島メッセ長崎において、柳原克紀会長（長崎大）のもと開催予定であり、副大会長として長谷川寛雄先生、木村由美子先生、事務局長として佐々木大輔先生、運営事務局は（株）コンベンションリンケージが担当することが報告され、長崎の紹介ビデオが流されたうえ、柳原克紀会長から一言挨拶があった。

3. 第 71 回学術集会報告（大阪 2024/11/28(木)～12/1（日）、日野雅之 会長）（大西宏明 理事長）

2024 年 11 月 28 日（木）～12 月 1 日（日）に、大阪国際会議場（グランキューブ大阪：大阪）において、日野雅之会長（大阪公立大）のもと開催予定であり、事務局長として中前美佳先生（大阪公立大）、運営事務局は（株）サンプルネットメディカルコンベンション事業部が担当することが報告されたうえ、日野雅之会長から一言挨拶があった。

4. 第 12 回特別例会報告（東京 2023/4/22(土)、古川泰司 特別例会長）（古川泰司 特別例会長）（大西宏明 理事長）

第 31 回日本医学会総会に合わせて日本医学会分科会として第 12 回特別例会を、2023 年 4 月 22 日（土）、大手町サンケイプラザホールにおいて、古川泰司特別例会長（帝京大）のもと、テーマ「臨床検査の未来を担う基盤と人～SDGs 3, 8, 9～」として開催予定であり、事務局長として横山直之先生、奥藤由紀子先生が担当すること報告され、古川泰司特別例会会長より一言挨拶があった。

5. 第 2 回機構専門医・第 39 回臨床検査専門医認定試験結果について（東京 2022/8/7(日)）（大西宏明 理事長、古川泰司 実行委員長）

8 月 7 日（日）、帝京大学霞ヶ関キャンパスで、第 2 回日本専門医機構基本領域臨床検査専門医および第 39

回日本臨床検査医学会臨床検査専門医認定試験を実施した。当日は、会場での機材不足、物品搬出不備などのトラブルがあったが、会場の入れ替えのみで済み、試験自体は問題なかった。

当初の機構専門医受験希望者 12 名、学会専門医受験希望者、初回受験 6 名、再試験受験 3 名だったが、学会専門医初回受験者が新型コロナウイルス感染の影響により出張不可の 2 名、体調不良により 1 名が受験辞退し、初回受験 15 名、再試験 3 名の合計 18 名が受験した。

8 月 19 日に試験委員会・試験実行委員会合同判定会議（Web）、9 月 15 日に臨床検査専門医・管理医審議会を行い、機構専門医 11 名の合格、1 名の不合格、学会専門医の初回受験 3 名の合格、科目受験 1 名が合格、2 名が 1 科目不合格となった。以上が報告された。

6. 第 14 回臨床検査管理医講習・認定試験結果について（東京 2022/9/4(日)）（大西宏明 理事長）

2022 年 9 月 4 日（日）に順天堂大学本郷キャンパス 15 号館 2 階において、第 14 回臨床検査管理医講習・認定試験を実施した。当初 41 名の受験希望者があったが新型コロナウイルス感染での影響により 3 名が受験辞退、38 名が受験した。9 月 15 日に臨床検査専門医・管理医審議会を行い、37 名が合格、1 名が不合格となった。以上が報告された。

7. 日本医学会連合門田班臨床内科グループ受託研究でのアンケート内容について（大西宏明 理事長）

令和 4 年度日本医学会連合「厚生労働科研」門田班 臨床内科グループ研究として専門分野の診療におけるコロナの影響について、アンケート調査などによる研究の要請（2023 年 4 月まで）があり、当会としても参画する。本件については、臨床検査室医療評価委員会に担当いただき、研究タイトルは「COVID-19 パンデミックと臨床検査体制」として研究を進めることとなり、11 月 1 日に会員全員に 11 月末日締め切りでアンケートがメール配信されたことが報告された。

8. 「遺伝情報の保護と遺伝情報による不当な差別の禁止に関する法律の成立に向けた活動」への賛同について（大西宏明 理事長）

2018 年より議論を進めてきた超党派「適切な遺伝医療を進めるための社会的環境の整備を目指す議員連盟」の尽力により、「良質かつ適切なゲノム医療を国民が安心して受けられるようにするための施策の総合的な推進に関する法律」の大綱が完成し、それを基にした基本法の成立を目指している。基本法では、長年、患者団体などからも要望があった遺伝情報に基づく不当な差別の禁止や生命倫理への配慮が謳われており、そのほか、ゲノム医療推進のための予算措置、人材確保なども含まれている。本件に関して当会も賛同学会となってほしい旨の依頼が超党派「適切な遺伝医療を進めるための社会的環境の整備を目指す議員連盟」からあり、先般、持ち回り理事会で承認を得て、当会として賛同の意を表明したことが報告された。

9. その他

特になし。

IV. 審議事項

1. 2022 年度中間事業報告について（古川泰司 総務理事）

2022 年度中間の事業報告がなされ、承認された。

2. 2023 年度事業計画案について（古川泰司 総務理事）

2023 年度事業計画（案）の説明がなされ、承認された。

3. 2022 年度会計中間実績・2022 年度補正予算案・2023 年度予算案について（谷直人 会計理事、大西宏明 理事長）

2022 年度中間実績：2022/1/1～2022/6/30 までの実際の収入と支出の実績額である。

2022 年度補正予算案：

- ・一般会計：英文誌（Laboratory Medicine International）第 1 巻 1 号）発行のため補正予算を立てた。
収入として投稿料（約 22000 円）、支出は査読システム：ScholarOne Manuscripts の初期設定費用、年間費用、宇宙堂八木書店での制作費として合計、約 110 万円を立てた。

- ・特別会計：会員マイページを運用上、必要が出てきたため改修費用 100 万円を支出として立てた。
- ・アジア交流基金：2022 年 10 月 7～8 日に神戸で開催した第 17 回アジア臨床病理・臨床検査医学会（ASCPaLM、宮地勇人会長）に補助金として 200 万円を支出した。

2023 年度予算案：収入、支出とも、2022 年度予算をほぼ踏襲している。ただ、英文誌発行にあたり、収入としては投稿料として概算で 250000 円、支出は査読システム ScholarOne Manuscripts の年間費用約 25 万円、編集委託先の制作費 132 万円、校正等管理料 22 万円で 200 万円を立てた。

以上が報告され、審議のうえ承認された。

4. 定款「第5章 社員総会」の改定について（大西宏明 理事長、会則改定委員会：田部陽子委員長）

評議員より、一般社団法人法に基づく社員総会の開催招集通知、議決について、現時点のものは不適切ではないかという意見があり、顧問弁護士の助言を得たうえで検討し、招集通知は 5 日前から 7 日前に、議決権行使の方法、議決権については過半数から 2/3 以上と改定することについて諮られ、承認された。

5. 2023 年度からの名誉会員・功労会員・社員（評議員）の推薦について（大西宏明 理事長）

1) 名誉会員として理事会で承認された次の 4 名が提示され承認された

東條尚子先生、宮地勇人先生、北島勲先生、前川真人先生

2) 功労会員として各支部から推薦され理事会で承認された次の 3 名が提示され承認された。

藤井聡先生、萱場広之先生、小杉真司先生

3) 評議員（社員）として、各支部から推薦され理事会で承認された次の 5 名が提示され承認された。

江原佳史先生、大塚弘毅先生、大門雅夫先生、安原努先生、北中明先生

6. 評議員の再任について（2023/01/01 付）（大西宏明 理事長）

2023 年 1 月 1 日付評議員再任予定者 29 名が提示された。再任手続きは、2022 年 12 月 26 日開催予定の評議員審査委員会での審査、審議会後となるが、評議員再任には社員総会の承認が必要のため、本理事会、2022 年 11 月 17 日の臨時社員総会の承認を得ておきたい。ただし、再任の単位を満たさない場合は退任となることを前提のうえ、2023 年 1 月 1 日付の評議員再任予定者 29 名について承認された。

7. 第 72 回学術集会 会長の推薦について（田部陽子 副理事長）

2025 年 第 72 回学術集会の会長として、関東・甲信越支部より大西宏明氏（杏林大学）が推薦され、理事会で承認された大西宏明先生について、承認された。

古川泰司総務理事より、2022 年度に係わる定時社員総会は、2023 年 3 月 26 日（日）に開催されることが報告された。

V. 閉会（田部陽子 副理事長）

田部陽子副理事長から閉会の挨拶があり、臨時社員総会を閉会した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

2022 年 12 月 日

一般社団法人日本臨床検査医学会臨時社員総会

議長 代表理事 大西宏明

議事録署名人 古川泰司

2022年度 日本臨床検査医学会 総会だより

日時：2022年11月19日（土）12：30～13：30

場所：栃木県総合文化センターホール棟 1階 メインホール（第1会場）

〒320-8530 栃木県宇都宮市本町1-8

出席：現地参加（約100名）

冒頭、大西宏明理事長より挨拶があった。

その後、第69回学術集会長の山田俊幸先生が議長となり、この度の学術集会開催にあたり挨拶があり、その後、議事を進行した。

臨時社員総会と同じ内容の報告がなされた。

田部陽子副理事長より、挨拶があり総会を閉会した。

総会終了後、機構臨床検査専門医一次合格者登壇、学会臨床検査専門医認定証授与、国際学会奨励賞、学会賞・功労賞の授与、新功労会員、新名誉会員顕彰の表彰式が執り行われた。